

JICHI

Medical University

自治医科大学概要
2025-26

INFORMATION
BROCHURE



JICHI MEDICAL UNIVERSITY CONTENTS

沿革	4
医学部	5
全国各地で活躍する自治医科大学 医学部卒業生	11
看護学部	13
大学院医学研究科	16
大学院看護学研究科	16
教育研究施設等	21
附属病院	26
附属さいたま医療センター	30
役員・評議員／教職員数	32
組織図	33
建物配置図	38
アクセス	40



建学の精神

全国の都道府県が共同で設立した自治医科大学は、医療に恵まれない地域の医療を確保し、地域住民の保健・福祉の増進を図るため、医の倫理に徹し、かつ高度な臨床的实力を有し、更に進んで地域の医療・福祉に貢献する気概ある医師を養成するとともに、併せて、医学の進歩を図りひろく人類の福祉にも貢献することを建学の精神としている。

地域医療に貢献する 自治医科大学のミッション

1. 地域医療、および地域の医療／保健／福祉ネットワークの構築とその維持に貢献する医療人を育成する。
2. 医療難民を作らない地域医療提供体制への研究／提言／支援を行う。
3. 医療／健康に貢献する研究を推進する。

設立の趣旨

自治医科大学は、医療に恵まれないへき地等における医療の確保及び向上と地域住民の福祉の増進を図るため、昭和47（1972）年に全国の都道府県が共同して設立した大学です。

医の倫理に徹し、かつ、高度な臨床能力を有する医師並びに保健医療と福祉に貢献できる総合的な看護職を養成することを目的とし、併せて医学及び看護学の進歩と福祉の向上に資することを目的としています。



沿革 History

令和7(2025)年4月1日現在

昭和45年 7 月 4 日	秋田自治大臣が「医学高等専門学校設立構想」を表明
46年 1 月21日	医科大学設立発起人会発足
5 月14日	名称は「自治医科大学」、校地は栃木県河内郡南河内町に決定
47年 2 月 5 日	学校法人自治医科大学設置認可
4 月13日	自治医科大学開学式
49年 1 月17日	附属病院開設許可
4 月 1 日	附属高等看護学校設置認可
4 月13日	附属病院開院式
52年 3 月22日	「附属高等看護学校」を「附属看護学校」に名称変更
53年 3 月24日	大学院医学研究科博士課程設置認可
55年 4 月 1 日	附属看護学校に3年課程の設置承認
59年 2 月 3 日	附属看護学校助産科設置認可
61年12月23日	看護短期大学設置認可
62年 5 月23日	看護短期大学開学式
63年 1 月 8 日	附属大宮医療センター開設許可
平成元年11月18日	附属大宮医療センター開院式
2 年 3 月20日	看護短期大学専攻科（助産学専攻）設置認可
13年12月20日	看護学部設置認可
14年12月19日	大学院医学研究科修士課程設置承認
17年12月 5 日	大学院看護学研究科修士課程設置認可
18年 4 月 1 日	自治医科大学の英語表記を『Jichi Medical University』に変更
9 月19日	とちぎ子ども医療センター開院式
19年 7 月 1 日	自治医科大学附属大宮医療センターの名称を『自治医科大学附属さいたま医療センター』に変更
23年12月21日	大学院看護学研究科看護学専攻課程変更認可（博士課程） （修士課程を改め博士課程とし博士前期課程と博士後期課程に区分）

医学部

School of Medicine

現在の社会においては、地域社会の医療の確保と向上及び地域の住民の福祉の増進を図ることが要請されています。自治医科大学の教育の原点は、ここに 있습니다。社会の要請に応えるためには、地域医療に進んで挺身する気概と高度な医療能力を身につけた医師を養成しなければなりません。

自治医科大学は、このような医師一主として総合医一の養成を目的として昭和47（1972）年に設立された医科大学です。開学以来、令和7（2025）年3月までに5,113名が卒業し、地域医療に大きく貢献しています。

さらに詳しい情報は
WEBサイトで
ご覧いただけます



医学部のミッション（使命）

「医療の谷間に灯をともし」

- 1 医の倫理に徹し、医師としてのプロフェッショナルリズムと豊かな人間性をもった人格の形成に力を注ぐ。
- 2 高度な医学知識と実践的な研究能力を涵養し、常に進歩しつづける医学の様々な分野に対応できる総合的な臨床能力を備えた医師を育てる。
- 3 医療にめぐまれない地域で進んで医療に挺身し、地域のリーダーとして必要な教養と資質を備え、社会の進歩に貢献する気概を持った医師を育てる。



ディプロマ・ポリシー （卒業認定・学位授与の方針）

自治医科大学医学部は、以下を備えた者に対し学士（医学）を授与し卒業を認定する。

医師としての豊かな人間性とプロフェッショナルリズムを有すること

1. 医師になるための自覚があり、医の倫理、患者の尊厳を理解し、ヒューマニズムに徹して、同僚・患者・家族・多職種を含めた他者に対して尊敬をもって接することができる
2. 患者、家族、多職種を含めた多様性のある他者への、背景を踏まえた理解ができる
3. 自助努力と他者への適切な依存を通し、客観的自己評価に基づいた自己研鑽と成長が実現できる
4. 自己決定の尊重と個人情報保護について適切に実践する力を身につけている
5. 規律ある行動と説明責任について適切に実践する力を身につけている
6. 倫理的行動と社会規範の遵守について適切に実践する力を身につけている

医学と医療における幅広い専門知識と臨床技能を併せ持つこと

- 総合医として必要な医療・医学の知識と技能
- 1. 医師に必要な教養と臨床医学の知識を修得し医療を実践する力を身につけている
- 2. 患者に対するBad newsの伝え方を含め、適切な医療コミュニケーションを実践する力を身につけている
- 3. 総合医としての診察技術と患者ケアについて体験し実践する力を身につけている
- 総合医としての問題解決能力と科学的探究
- 4. 臨床推論・EBMの実践および研究手法を理解し科学的探究を実践する力を身につけている
- 5. 社会の変化に応じた生涯にわたって学習しキャリアを継続する力を身につけている
- 6. 医療安全と医療の質について評価・検証する力を身につけている

地域医療における指導的役割を理解し実践する能力があること

- 地域医療における理解と実践
- 1. 地域特性を踏まえた地域医療を実践する力を身につけている
- 2. チーム医療と多職種連携について理解に基づき適切に実践する力を身につけている
- 3. 地域包括ケアについて理解に基づき適切に実践する力を身につけている
- 4. 地域における予防と健康増進について適切に実践する力を身につけている
- 地域医療における柔軟なマネジメント
- 5. 変化し続ける未来の社会や地域を見据え、適切な地域分析と学際的研究に基づいた医療の実践に取り組める
- 6. 地域医療におけるリーダーの役割を理解しリーダーシップを発揮する力を身につけている

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーを基に教育課程を編成する。

- 1 総合教育、基礎医学、臨床医学、地域医療学の相互連携のうえで、全人教育としての倫理教育、プロフェSSIONAL教育として行動科学を全学年に配置する。
- 2 6年間の一貫的教育により、段階的に総合的な医学知識および技能の習得をめざす。
- 3 能動的学修や、ICTを活用した遠隔教育等を有効に活用し、学習効率を高める。
- 4 実践的な臨床能力を身につけるために、早期から基礎医学・臨床医学講義を行い、長期間の充実した臨床実習期間を設ける。
- 5 必修科目のみならず選択科目を数多く設けることで、幅広い興味に対応する多彩な学習機会を提供する。
- 6 全学年にわたり地域医療に関する様々な講義と実習を配置し、地域医療に関して広く深く理解し、地域医療において指導的役割をはたす能力を段階的に習得する。
- 7 各学年での到達目標（マイルストーン）を定め、学年ごとの形成的評価を行うとともに、総括的評価を行うことにより段階的な知識・技能の習得を確認する。

教育課程

学生が卒業の時点で臨床医学についてより高度の基礎的能力を身につけることを目的として、学生が抱く「総合医」志向の意欲を維持しながら自主的に医学の学習を発展させることができ得よう6年間一貫した教育を行っています。



アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

■求める学生像

医師として社会に貢献する自覚をもち、地域医療に進んで取り組む気概のある、次のような人を求める。

適性

- コミュニケーション能力が高く、行動力がある。
- 高い倫理観と幅広い教養を兼ね備える。
- 困難に直面しても、目標に向かって努力を継続できる。

基本的学力

- 論理的思考力が高い。
- 文章や発表における表現力が高い。
- 医学習得に必要な能力と十分な意欲を有する。

地域医療への意欲

- 総合的診療能力を有する医師を目指す。
- 医療を通じて地域社会のリーダーを目指す。

■入学選抜の基本方針

学校推薦型選抜

- 入学志願者に対して、本学で基礎学力検査および面接試験を行う。
- 調査書、推薦書、活動報告書等の必要書類、基礎学力検査および面接試験の結果を総合的に判断し、本学の建学の趣旨を理解している者を若干名選抜する。

総合型選抜

- 入学志願者に対して、本学で基礎学力検査および面接試験を行う。
- 調査書、志願者評価書、活動報告書等の必要書類、基礎学力検査および面接試験の結果を総合的に判断し、本学の建学の趣旨を理解している者を若干名選抜する。

一般選抜

- 入学志願者に対して、各都道府県で第1次試験（学力試験・面接試験）を行い、その合格者に対して、本学で第2次試験（記述式学力試験・面接試験）を行う。
- 第1次試験および第2次試験の成績並びに提出のあった調査書等の必要書類により総合判断し、本学の建学の趣旨を理解している者を各都道府県から若干名ずつ選抜する。

■入学までに身につけておくべき教科・科目等

入学までに次のことを身につけることを望む。

- 数 学** 数学の基礎的な知識・思考法を用いて問題解決する能力と技能
- 理 科** 物理、化学および生物についての基礎的知識とそれらに基づいた科学的思考力
- 英 語** 読解力、表現力、会話力などの基礎的能力
- その他** 文章読解力、論述力、思考力およびコミュニケーション能力

入学者選抜方法と定員

入学試験は、一部の県で実施する学校推薦型選抜、総合型選抜と、全都道府県で実施する一般選抜により学生を選抜しています。

医学部の入学定員は、これまで100名でしたが、国の新医師確保対策に基づき、平成20（2008）年度から10名、平成21（2009）年度から栃木県地域枠の3名、さらに、平成24（2012）年度から国の新成長戦略に基づき10名を増員し、定員は123名となりました。

入学定員 123人 収容定員 738人

令和6（2024）年度



修学資金貸与制度

自治医科大学医学部には、入学者全員に対して、入学金等の学生納付金の全額及び入学時に必要となる教科書等の購入に係る支援を目的とした入学時学業準備費（入学時のみ）を貸与する修学資金貸与制度があります。

この貸与金は、大学を卒業後、医師として出身都道府県の知事が指定する公立病院等に修学資金の貸与を受けた期間の2分の3に相当する期間勤務（うち2分の1は、へき地等の指定公立病院等に勤務）した場合には、返還が免除されます。

奨学資金貸与制度

奨学資金は生活費の一部を貸付することにより、経済的な面から修学を支援していくものです。申請者全員に月額50,000円を貸与し、さらに家庭の経済状態や学業成績などを勘案して選考し、月額最高150,000円まで無利息で貸与する制度です。なお、卒業後、9年以内に割賦（毎年6月及び12月の半年賦均等償還）の方法により返還していただきます。

全寮制度

学生に共同生活を通して、規律の遵守、責任感の涵養、協調自立の精神の高揚を図り、併せて教育効果を向上させるために、6年間一貫した全寮制度をとっています。

臨床教授（地域担当）等制度

地域（学外）の医療機関での実習を積極的に取り入れている本学では、地域の臨床現場で学生教育を担当する臨床講師（地域担当）制度を平成11（1999）年度から導入しています。さらに、平成21（2009）年度からは、この臨床講師制度に加え、各都道府県における実習のコーディネートにとどまらず、幅広く高度な臨床能力を有し、地域医療の現場で学生の指導にあたる「臨床教授・臨床准教授（地域担当）制度」を導入しました。

フリーコース・スチューデントドクター／ Free Course Student Doctor (FCSD) 制度

平成23（2011）年度から、5年生終了時に国家試験合格レベルの知識を有し、かつ志の高い優秀な学生に対して、6年生での授業の出席・卒業試験を免除し、希望する研修や実習プログラムを自主的に作成して、教員の指導のもとに学習するフリーコース・スチューデントドクター／Free Course Student Doctor (FCSD) 制度を導入しました。



海外短期留学制度

タイのチュラロンコン大学と学術・教育協力協定を締結し、選択必修BSL（臨床実習）の時期に合わせて毎年数名の学生を選考のうえ、約4週間、大学に海外短期臨床実習生として留学させることとしています。

研究

自治医科大学は、地域医療を担う総合医の養成を主な目的に設立され、医療の進歩に貢献する組織として魅力的かつ効率的なものに常に変革しています。附属病院の医療レベルの高度化を図ると共に、大学の基盤としての研究活動の活性化を重視し、若手を中心に人材の交流が活発になるようなシステムの構築が進められています。全国に展開する本学卒業生との連携を軸にした21世紀COEプログラムの経験をベースに、さらにグローバルな視点を取り入れた研究活動を推進していくことで、本学の存在価値を一層高めていくことが、優れた教員や医学生を惹き付けることに繋がると考えています。

大学院医学系研究科では、修士・博士課程があり、修士課程では多様な専門教育のバックグラウンドを持つ人材を医学へと導くための、博士課程では豊かな学識と高度の研究能力を身につけ医学及び医療分野での指導的な役割を果たす人材となるための教育・研究システムを備えています。また、地域で働く若手が地域において、あるいは、学内勤務者が大学院教育を受けられる社会人大学院制度があります。2025年度からは、JSTの博士学生支援事業である次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）による「地域に根差した次世代基礎・臨床医学研究者育成プロジェクト」が開始され、優秀な博士課程学生に対し経済的支援と多様なキャリアパスの支援を行っています。また、学外の研究機関や他大学大学院との連携に向けた交流も盛んに行っています。

臨床展開を目指したトランスレーショナル研究を推進する分子病態治療研究センターは、文部科学省のハイテク・リサーチ・センター整備事業、それに引き続く私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、そして私立大学研究ブランディング事業のサポートを受け、本学の研究体制のコアになっています。この研究組織は、時代の要請に応じた研究を効率良く推進できるようにフレキシブルな体制とし、任期制を導入しています。また、令和2-3（2020-2021）年度は新型コロナウイルス感染防止のため開催できませんでしたが国際シンポジウムを毎年開催し、国際交流にも力を入れています。また、先端医療技術開発センターは文部科学省の共同利用・共同研究拠点に認定されています。さらに、実験医学センターがリニューアルされ稼働しています。

臨床研究はかつてない程、重要性が高まっています。適切に臨床研究を推進するため臨床研究支援センターが大学病院内に新たに開設されています。さらに、大規模データの管理と解析を行うデータサイエンスセンター、遺伝子治療研究センター、大型共同研究を推進するオープンイノベーションセンター、ヘルスエクイティ地域共創センターが設置されています。遺伝子治療研究センターは2023年からAMEDの再生・細胞医療・遺伝子治療研究拠点となっています。また、大学で生み出された先端医療技術の社会還元を目的に「大学発ベンチャー認定制度」を運用しています。

世界的にみてもユニークな存在である自治医科大学のさらなる発展に向け、研究面で一層の飛躍を目指しています。

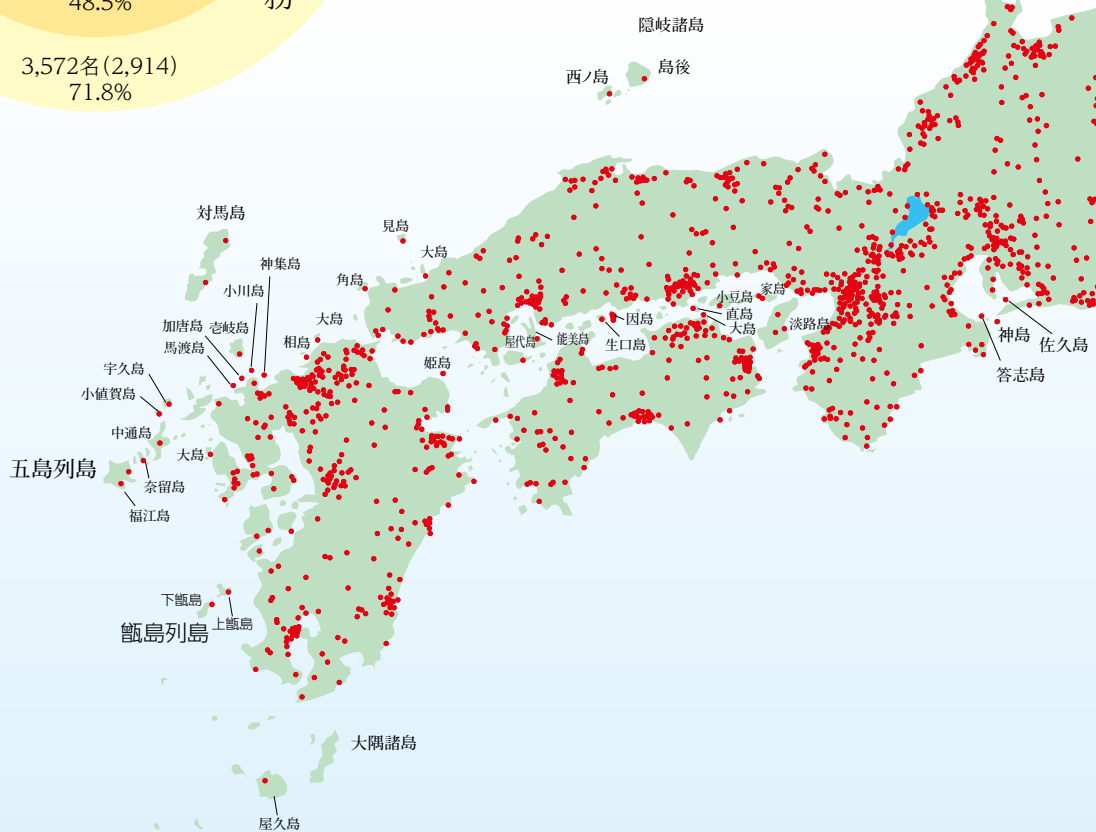
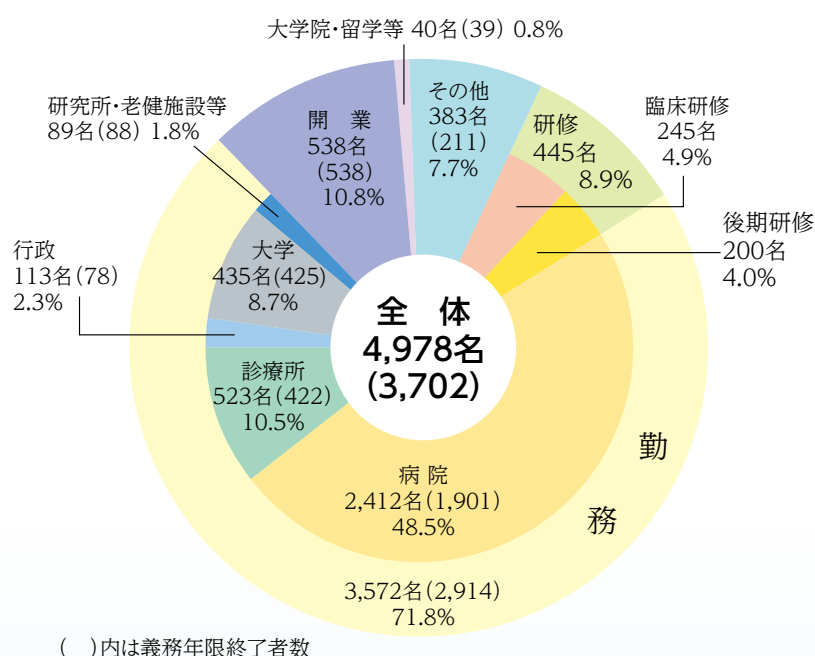


全国各地で活躍する自治医科大学医学部卒業生

昭和47（1972）年の開学以来、5,100名を超える卒業生が医師となり、全国各地のへき地、離島等を含む第一線の医療現場で総合医として地域医療の実践に取り組んでいます。本学では、これらの医療現場で働く卒業生が常に最新の医療を提供できるよう、総合的・計画的・継続的な生涯研修の機会を用意するとともに、卒業生との情報交換を密にし、地域医療の支援体制を強化するため専門の窓口を設けるなど、大学と卒業生が一体となって地域医療の充実強化に取り組んでいます。

保健・医療・福祉の連携、統合が求められる現在、本学の卒業生が総合医として取り組んできた地域医療の実践は、そのニーズに的確に応えるものであり、本学及び卒業生に対する期待とその果たす役割は、今後益々大きくなるものと考えられます。

■卒業生の勤務動向 令和6（2024）年7月1日現在

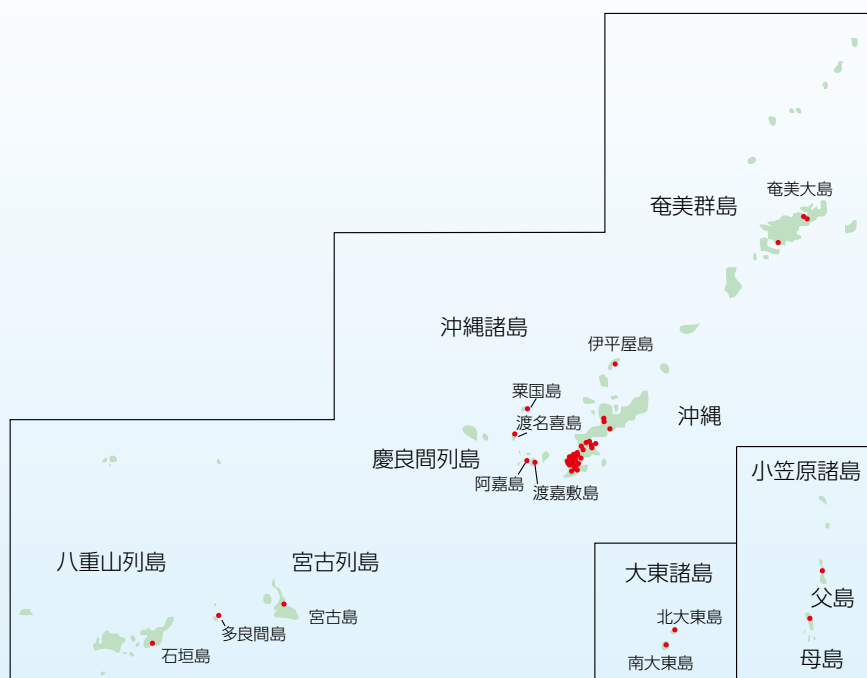


さらに詳しい情報は
WEBサイトで
ご覧いただけます





全国各地のへき地、離島等で地域医療の実践に取り組む自治医科大学医学部卒業生



看護学部

School of Nursing

医学の進歩、少子高齢化社会の進展、国民の健康意識の多様化等、保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化に伴い、看護の分野においても高度化・専門化が進んでいます。看護学部では、このような状況に対応できる能力を身につけた看護職を育成します。

具体的には、高い資質と倫理観を持ち、高度な医療と地域住民の保健・医療・福祉に貢献できる総合的な看護職者の養成を目指して、独自の看護教育システムを展開しています。

さらに詳しい情報は
WEBサイトで
ご覧いただけます



入学定員 105人 収容定員 420人

取得学位名 Bachelor of Nursing (BN)

看護学部のミッション（使命）

- 1 看護職としての高い倫理観と豊かな人間性を涵養することに力を注ぐ。
- 2 高度医療と地域看護に従事できる臨床能力を備え、保健医療福祉の発展に貢献できる看護職を育成する。
- 3 看護実践を改善・改革でき、生涯にわたって自己研鑽できる能力を身につけた看護職を育成する。

ディプロマ・ポリシー （卒業認定・学位授与の方針）

- 1 人間としての感性を基盤とした深い人間理解とコミュニケーション能力
- 2 関わる人々の主体性を尊重する倫理的態度
- 3 さまざまな状況にある人々の健康課題に対し、多様なアプローチを必要に応じて効果的に用いることのできる専門的能力
- 4 保健医療及び福祉における看護の役割を理解し、人々の健康と幸せの実現のために努力し、また関係者と協力する実行力
- 5 看護実践にかかわる現状を把握し、改善・改革を導くための基本的な力

カリキュラム・ポリシー （教育課程編成・実施の方針）

- 1 看護学の学士力を養うために、看護師、保健師及び助産師に共通する看護学を基盤とした統合的なカリキュラムとする。
- 2 学生の希望を踏まえたキャリア形成を支援し、生涯学習の基盤となる幅広い教養と科学的思考力を育成するために、カリキュラムを編成する。
- 3 健康・人間・環境・看護を主要概念とし、看護基礎科学分野、看護学分野及び総合分野で構成し、各科目をバランスよく配置する。
- 4 看護学分野を発達過程に共通する看護実践と発達過程に焦点をあてた看護実践にわけて教育する。
- 5 少人数による教育や活発な討議の機会を多く設け、学生の主体的・創造的な学習を促進する。
- 6 看護実践能力を育成するために、看護学実習を重視し、看護実践への関心を早期から高め、多様な施設や場における実習を展開する。



アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

■求める学生像

- 看護に関心があり、地域における保健・医療・福祉分野に貢献したい人
- 常に誠実にふるまい、思いやりをもって、周囲と積極的に協力しあえる人
- 人間の健康や人間を取り巻くさまざまな環境のあり方に興味のある人
- 相手の言葉に耳を傾け、自分の考えを的確に表現する力が備わっている人
- 柔軟な発想をもち、新たな知識を探求し、問題を解決する意欲と行動力のある人

■入学までに身につけてほしいこと

- 人間と、その健康および人間を取り巻くさまざまなできごとに関心をもつこと
- 常に誠実にふるまい、思いやりをもって周囲の人々と積極的に協力しあえる態度
- さまざまなことに疑問を持ち、それを主体的に探求する態度および問題を解決する意欲と行動力
- 相手の言葉に耳を傾ける態度および自分の考えを的確に表現する力
「国語」「外国語」：読解力、表現力
- 自然科学を理解する基本的な力
「数学」「生物」「化学」：基本的な知識とそれらに基づく論理的思考力

■入学選抜の基本方針

自治医科大学看護学部では、求める学生像に基づき、一般選抜および学校推薦型選抜により、入学者選抜を行います。

一般選抜

一般選抜では、第一次試験を行ったのち、第一次試験の合格者に対し、第二次試験を行います。

第一次試験

大学教育を受けるために必要な基礎学力を筆記試験および調査書により評価します。

《筆記試験》

「国語（現代の国語・言語文化）※古文・漢文を除く」、「英語（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ）」、「数学Ⅰ・A」の3科目の筆記試験を行います。すべての試験はマークシート方式であり、記述式問題はありません。「国語」および「英語」では、基礎知識および読解力を確認します。「数学Ⅰ・A」では、論理的思考力を確認します。

《調査書》

自然科学の基礎知識は、調査書において、「生物基礎」および「生物」、または「化学基礎」および「化学」の履修状況により確認します。

第二次試験

10分程度の個人面接試験を行います。面接では、志願票も活用して看護への関心、調査書も活用して主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、誠実さ、思いやり、周囲との協調性、コミュニケーション能力、的確な表現力を確認します。

以上のように第一次試験および第二次試験を実施し、多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜

過去の入試実績および入学実績による本学部への関心の程度に基づき高校を選定します。教職員がそれらの高校を訪問するなどして、本学の建学の精神並びに看護学部の理念・目的および学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を説明します。各高校には適した学生を推薦枠の範囲内で推薦していただきます。

入学者選抜は、学習成績の状況が一定レベル以上であることを条件とし、小論文および面接試験により行います。受験にあたっては、志願者による志願票、活動報告（これまで、学校内外で力を入れてきたこと）および学習計画書（本看護学部入学後の学習年次計画）、高校の推薦書および調査書の提出を求めます。小論文は、課題文型とし、論理的思考力・判断力、的確な表現力を評価します。面接試験は、10分程度の個人面接を行い、志願票、活動報告および学習計画書、推薦書、調査書も活用して、看護への関心、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、誠実さ、思いやり、周囲との協調性、コミュニケーション能力、的確な表現力を確認します。以上のことから、多面的・総合的に評価します。

なお、入学決定者には本学部入学までの学習計画を立てていただき、その取り組み状況を入学時に提出していただきます。

大学院

Graduate Schools

医学研究科 看護学研究科

Graduate School of Medicine & Graduate School of Nursing

大学院は、医学、看護学、医療及びその関連領域に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展と地域医療の充実、医学及び看護学の発展に寄与し、人類の福祉の向上に資することを目的とし、医学研究科及び看護学研究科をおいています。

本大学院の課程は、修士課程及び博士課程から成り、各課程の目的は次のとおりです。

修士課程（医学研究科）、博士前期課程（看護学研究科）：

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養う。

博士課程（医学研究科）、博士後期課程（看護学研究科）：

専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う。



医学研究科

Graduate School of Medicine

大学院医学研究科は、医学・医療の進展と地域医療の充実を図ることを目的とし、高度の研究能力と豊かな学識を身に付け、医学・医療の進展に指導的な役割を果たす人材の養成を目指します。

修士課程に医科学専攻を、博士課程に地域医療学系、人間生物学系及び環境生態学系の3つの専攻を設置し、専門科目については、臓器別・器官別に分けるなどの工夫を凝らすとともに、学際的な領域の教育にも積極的に取り組んでいます。

さらに詳しい情報は
WEBサイトで
ご覧いただけます



入学定員 修士課程 10人 博士課程 25人

収容定員 修士課程 20人 博士課程 100人

学位授与数

修士課程	博士課程	
	甲種(課程博士)	乙種(論文博士)
146	749(178)	880(275)

() 内は本学医学部卒業生で内数 令和7(2025)年4月1日現在

ミッション (使命)

修士課程

体系的な医学知識と研究能力を身につけ、医学及び医療分野の発展と地域医療の充実に寄与する人材を養成する。

博士課程

自立して科学研究を行うための豊かな学識と高度の研究能力を身につけ、医学及び医療分野の発展と地域医療の充実に指導的な役割を果たす人材を養成する。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

本学医学研究科は、医学の進展と地域医療の充実を果たすための、豊かな学識と高度の研究能力とを身に付けた者に対し、学位を授与する。

1. 学位授与基準

修士課程においては、2年以上在学して所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士(医科学)の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

- (1) 広い視野と医学・医療分野の基礎的知識及び専門領域に関連する知識を習得している
- (2) 高い倫理観と責任感を有する社会人・医療人として自立できる
- (3) 研究成果を社会に還元し、医学・医療分野の進展に貢献できる

博士課程においては、4年以上在学して所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士(医学)の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

- (1) 自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎的知識を習得している
- (2) 高い倫理観と責任感を有する研究者として自立できる
- (3) 独創性豊かな研究を立案・遂行できる

- (4) 医学の進歩と地域医療の充実に指導的な役割を果たすことができる
- (5) 研究成果を世界に発信し、医学・医療分野の進展に貢献できる

2. 学位論文審査基準

学位論文の審査については、次に定める事項に基づき、厳正かつ公正に行われるものとする。

【修士課程】

- (1) 研究テーマの目的、背景の明確性
- (2) 当該分野における特色性・独創性
- (3) 社会的意義・発展性
- (4) 計画、方法の妥当性およびデータの正確性・倫理性
- (5) 引用文献の適切性
- (6) 理解度
- (7) 論文の体系、論旨の一貫性

【博士課程】

- (1) 研究テーマの目的、背景の明確性
- (2) 国際レベルでの特色性・独創性
- (3) 社会的意義・発展性
- (4) 計画、方法の妥当性およびデータの正確性・倫理性
- (5) 引用文献の適切性
- (6) 理解度および今後の展望
- (7) 論文の体系、論旨の一貫性
- (8) 英文原著論文の作成能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学医学研究科は以下の方針に基づき教育課程を編成・実施し、学位授与の方針で示した目標を学生が達成できるようにする。

修士課程

- ・医学部以外の学部教育を受けた学生に、医科学分野における基礎知識習得と研究トレーニングの場を提供する。
- ・医学及び関連領域の広い視野に立った学識と高い倫理観を有する社会人・医療人として育成することを目的とした科目を編成する。
- ・講義科目においては、医療現場における問題点をみつけ、基礎医学及び社会医学領域を広くカバーする必修科目を定める。
- ・研究指導科目においては、着実な研究遂行能力を獲得させるために、各研究室における指導を中心として、方法論の原理の理解、正確な実験手技の獲得、科学的な実験デザイン及び実験結果の解釈について丁寧な指導を行う。
- ・履修にあたっては、自らの知識及び思考過程を的確に文章化し表現する能力の養成と、研究目的に応じた戦略を展開するための方法論を深く理解させることを重視する。
- ・学位取得を申請する研究については、中間発表等を行わせ、指導教員とその他の教職員は問題点を抽出し助言を与える。

博士課程

- ・医学の専門的知識と技能を結集した学際的研究・教育の場を提供する。
- ・先端的研究成果を含めた学識と高い倫理観を有する研究者として育成することを目的とした科目を編成する。
- ・講義科目においては、自律した研究活動を行う基礎となる学識を修得させる。
- ・演習科目及び研究科目においては、医学研究の水準の維持発展に貢献できる高度の研究能力を養成する。
- ・履修にあたっては、研究テーマの設定、問題解決方法、科学的根拠に基づく結果の解釈を自立して行う能力及び他の研究者とのコミュニケーション能力の養成と、新たな学問分野の創設をも展望できる視野をもたせることを重視する。加えて、研究成果の発表及び研究費獲得を自律して行う事ができる能力を獲得させる。
- ・学位取得を申請する研究については、中間発表等を行わせ、指導教員とその他の教職員は問題点を抽出し助言を与える。

アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）

修士課程

医学研究科では教育目標を達成するため、次のような学生を求めます。

- ・新しい視点から医科学研究に取り組み研究者・教育者を目指す意欲を有している。
 - ・第一線の専門知識を身につけて高度専門職、医療従事者として医学・医療に貢献する意欲を有している。
 - ・英文論文を理解できる英語の能力を有している。
 - ・医科学の視点から研究するための幅広い基礎学力と希望する専攻分野の基礎知識を有している。
 - ・医学研究に必要な高い倫理感を備え、かつ明確な目的意識を備えている。
- 社会人大学院コースでは、前記に加え、行政、企業などで働きながら研究を行う意欲を持つ人を求めます。

博士課程

医学研究科では教育目標を達成するため、次のような学生を求めます。

- ・地域医療の発展に繋がる医学・医療の向上に貢献する意欲を有している。
 - ・先端医科学研究の興味と適性を有し、未来の医学・医療、生命科学を開拓する意欲を有している。
 - ・次世代を担う医療人を育成する意欲を有している。
 - ・学位論文作成のために十分な英文読解及び作成能力、ならびに英会話能力を有している。
 - ・医学・医療、生命科学の研究遂行に必要となる基礎知識と応用力を有している。
 - ・医学研究に必要な高い倫理感を備え、かつ明確な目的意識を備えている。
- 社会人大学院コースでは、前記に加え、医療現場などで働きながら研究を行う意欲を持つ人を求めます。

看護学研究科

Graduate School of Nursing

大学院看護学研究科は、高度の研究能力と豊かな学識を身に付け、看護学の進展と地域の保健医療及び福祉の向上に指導的な役割を果たす人材を養成することを目的としています。

入学定員 博士前期課程 8人 博士後期課程 2人

収容定員 博士前期課程 16人 博士後期課程 6人

学位授与数

博士前期(修士)課程	114
博士後期課程	13

令和7(2025)年
4月1日現在



さらに詳しい情報は
WEBサイトで
ご覧いただけます



ミッション (使命)

博士前期課程

卓越した看護実践能力を有し、組織機能を発展させながら高度医療と地域医療をつなぐ高度実践看護職を養成する。

博士後期課程

ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ、看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し、看護学を発展させることのできる教育研究者を養成する。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

博士前期課程

所定の単位を修得し、学位論文審査に合格した者で、高度な看護実践力を有し、組織機能を向上拡大させながら高度医療と地域医療をつなぐチーム形成と機能向上を図ることができる人材に、修士(看護学)の学位を授与する。

高度な看護実践力とは、以下の通りである。

1. 実践看護学分野では、高度な判断力・臨床実践力および組織調整力
2. 地域看護管理学分野では、看護ケアの効果的・効率的な提供を具現化する看護活動や看護サービス提供システムを構築・改善できる力

博士後期課程

所定の単位を修得し、学位論文審査に合格した者で、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、看護に関する問題の全体像と本質を捉えて探究し、看護学を発展させることのできる教育研究力を備えた人材に、博士(看護学)の学位を授与する。

備えるべき教育研究力とは、以下の通りである。

1. 複数の看護専門領域の視座から従来の知見を踏まえ、看護実践を基盤とした新たな知見を創出できる力
2. 学際的な分野への対応能力を含めて、看護実践に即した研究を自立して企画・推進できる力
3. 研究的手法を用いてヘルスケアシステムや看護提供システムを評価できる力
4. 看護実践力や研究能力を付与できる力

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

博士前期課程

1. 高度看護実践力の育成強化を中心に編成し、そのために必要不可欠な共通科目と専門科目を置く。
2. 共通科目は、高度実践看護職として機能するために、看護学領域を越えて共通に必要な実践、教育、相談、調整、研究、倫理、管理、ならびに地域医療に関する学識を修得するための科目を置く。看護管理・政策論は必修科目とする。
3. 実践看護学分野では、個人およびその家族を対象とする高度な看護実践力を修得するための科目を配置する。地域看護管理学分野では、地域社会において看護サービスを提供し、組織化することに求められる看護実践力の修得のための科目を配置する。
4. 実践看護学分野では、4つの看護学領域毎に専門科目で

ある講義、演習、特別演習、専門看護実習、課題研究を置き、必修科目と選択科目で構成する。また、選択科目である全領域共通の実践看護学特別研究を置く。

5. 地域看護管理学分野では、3つの専攻学領域毎に専門科目である講義、演習、特別演習を置き、また全領域共通の地域看護管理学特別研究を置く。すべて必修科目で構成する。
6. 課題研究、特別研究のいずれかを履修させ、研究活動および修士論文の作成を指導する。研究課題の設定および研究方法等を幅広い観点から検討する機会を大学院生に提供するために、博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーを開催する。
7. 実践看護学分野には、小児看護、母性看護、精神看護、がん看護の4つの専門看護師教育課程を設ける。

博士後期課程

1. 広域実践看護学分野は、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、科学的な根拠に基づく看護ケアの開発やその看護ケアを効果的・効率的に提供するためのケアシステム、ならびに施策・政策化に寄与する看護学の教育研究を行う分野である。このような分野の考え方から、博士前期課程の実践看護学分野と地域看護管理学分野を相補的に深化させた教育内容の専門科目と専門関連科目により、カリキュラムを編成する。
2. 専門科目は、講義、演習、特別研究で構成する。
3. 専門科目の講義科目では、看護に関する問題の全体像と本質を捉えた上で、研究課題と研究方法を探究できるようにするための必修科目と選択科目を置く。必修科目は、ヘルスケアシステムや看護提供システムに関わる課題に対する研究的アプローチを学修する科目とする。選択科目は、複数の看護専門領域の研究的アプローチを学修する科目とする。

4. 専門科目の演習科目は必修科目とする。4つのテーマを設け、システムと看護ケアの各面からテーマを1つずつ選択させ、看護の対象を取り巻くヘルスケアシステムを視野に入れつつ、ヘルスケアシステムや看護提供システムと看護ケアの課題を結び付けて、研究課題を焦点化し、研究計画に反映できる学修内容とする。
5. 専門科目の特別研究は、1年次から3年次をとおした必修科目とする。研究活動および博士論文の作成を、主研究指導教員と2名の副研究指導教員の体制で指導する。
6. 専門関連科目は、広い視野、深い洞察力、総合的な判断力、および看護の新たな概念・知識体系を構築するための基盤を養い、研究方法を探索できるように看護学分野以外の分野の知見や研究方法を学修する選択科目で構成する。
7. 専門領域外の看護職や研究者ともコミュニケーションを図りながら研究を推進していく力を身につけるために、演習・特別研究の一環として、博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーを定期的に開催する。

アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）

博士前期課程

（1）求める学生像

- ①高度看護専門職業人とし、保健医療福祉の多様なニーズに対し高い倫理観と実践的な専門性を身につけ、社会に貢献したい人
- ②看護管理の活動を通し、保健医療福祉の組織機能の改善や向上に寄与する新たな提言をしたい人
- ③知的好奇心に富み、実践に適した様々な解決方法を考え、リーダーシップを発揮できる行動力のある人
- ④将来に対するビジョンと信念を有し、未来を切り拓いていくこうとする情熱のある人

（2）入学までに身につけてほしいこと

- ①看護実践に関する課題を言語化し、保健医療福祉の多様なニーズに対応した改善や向上に向けて、論理的に説明できること
- ②看護専門分野に関する国内外の動向について情報収集し、理解するために必要な語学力を持つこと
- ③看護実践に関する課題を踏まえ、将来に対するビジョンや社会への貢献について説明できること

（3）入学選抜の基本方針

- ①学力検査（専門科目等の筆記試験）
 - ・看護学：希望する看護専門領域に関する実践的課題を言語化し、課題解決するための思考力
 - ・英語：看護実践に関する課題について理解するための語学力
 - ②面接：志望の動機と将来に対するビジョンの明確性、リーダーシップを発揮できる行動力、大学院で学ぶための計画性、論理的思考力、表現力
 - ③出願書類（志望理由書、資格取得後の看護実践活動及び社会的活動、実績一覧）：志望の動機の明確性、リーダーシップを発揮できる行動力
- ①～③により、能力・意欲・適性、学修の成果等を多面的・総合的に評価・判定する。

博士後期課程

（1）求める学生像

- ①人々の生命・健康・福祉を守り、生活の基盤となる保健・医療・福祉サービスを提供する組織化された仕組みの整備状況、機能性、課題を踏まえ、看護学の教育研究活動の未来を切り拓く熱意のある人
- ②地域社会の変容を背景とした地域医療及び高度専門医療が直面する課題に対し、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れ、複数の看護専門領域の視座から理解し、看護実践を開発できる優れた研究能力を身につけ、看護学の教育研究活動に貢献したい人
- ③科学的な根拠に基づく看護ケアの開発や看護ケアを効果的・効率的に提供するためのケアシステム、施策・政策化に寄与し、看護学の発展に貢献できる新たな提言をしたい人

（2）入学までに身につけてほしいこと

- ①看護実践に関する課題に関して、複数のヘルスケアシステムや看護提供システムの視点を持つこと
- ②研究課題について、国内外に発信する語学力を持つこと
- ③看護学の教育研究活動に関するビジョンについて、論理的に説明できること

（3）入学選抜の基本方針

- ①学力検査（専門科目等の筆記試験）
 - ・看護学：ヘルスケアシステムや看護提供システムを踏まえて、看護実践に関する課題を論理的に説明できる能力
 - ・英語：看護実践に関する課題について理解し発信するための語学力
 - ②口頭試問（出願書類の研究実績一覧及び研究計画書）：広域実践看護分野で研究するための準備性
 - ③面接：志望の動機と看護学の教育研究活動に関するビジョンの明確性、大学院で学ぶための計画性、論理的思考力、表現力
 - ④出願書類（志望理由書）：志望の動機の明確性
- ①～④により、能力・意欲・適性、学修の成果等を多面的・総合的に評価・判定する

教育研究施設等

Research and Educational Facilities

Center for Community Medicine

地域医療学センター

地域医療学センターは、地域医療の発展に必要な高度な教育、研究、診療の実現を目的として、平成16（2004）年4月に設置されました。

このセンターは、7つの部門（地域医療学、公衆衛生学、総合診療、医療政策・管理学、地域医療支援、東洋医学、地域医療人材育成）からなり、地域医療の体系化と情報発信を行う、真にわが国の地域医療のセンター的役割を担うことを目指しています。



Center for Molecular Medicine

分子病態治療研究センター

先端医科学の研究開発を実施する組織として、平成10（1998）年度に分子病態治療研究センターが設立されました。設立当初から、「文部科学省ハイテクリサーチセンター整備事業」をはじめ、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」や「私立大学研究ブランディング事業」などの支援を受けて、研究基盤の整備・強化が進められ、最先端の医学研究を推進する学際的な拠点として、これまで数多くの優れた研究成果を国内外に発信しています。

現在、センターは8部門（分子病態、領域融合治療、遺伝子治療、抗加齢医学、再生医学、炎症・免疫、分子医工学、心血管・遺伝学研究部）で構成されており、それぞれの分野で高い専門性を発揮しながら相互に連携し合うことで、多角的かつ総合的な研究活動を展開しています。また、医学部の基礎系・臨床系講座との共同研究も積極的に推進しており、地域医療の発展や医療技術の革新にも寄与しています。さらに、本センターは大学院教育においても中核的な役割を果たしており、次世代の医学研究者や研究マインドを持つ医療人の育成にも大きく貢献しています。



さらに詳しい情報は
WEBサイトで
ご覧いただけます



Center for Information

情報センター

情報センターは、情報技術の活用を計画的に推進し、教育、研究、診療および地域医療の活性化と向上に資するため、平成15（2003）年4月に発足しました。平成15（2003）年9月に、情報センター内にコンピュータ演習室と教育サーバ室が設置され、教育の情報化の中心として活用されています。情報センターは、ネットワーク基盤を整備し、全学情報化を推進し、さらに全国の卒業生とのコミュニケーションを促進します。

平成28（2016）年にIR（インスティテューショナル・リサーチ）部門が設置され、教育を中心とした学内の各種データの集積・分析にも取り組んでいます。



Library

図書館

図書館は、地域医療情報研修センターの2階及び3階に位置し、教育・研究・診療の諸活動、卒業生の生涯教育や地域医療のために必要な資料・情報を最も効果的に収集し、提供する役割を担っています。さらに広く地域社会及び医療関係者にも利用の途を開いています。そのために、医学図書館に必要な標準的な施設に加えて、メディアスタジオ等総合的な資料・情報を提供し得る機能を備えています。



RI Center

RIセンター

RIセンターは、放射線共同利用施設として昭和49（1974）年3月に開設されました。昭和62（1987）年には、実験医学センター内にもRI実験施設が設置され、非密封放射性同位元素（15核種）を利用した医学・生命科学の研究が行われています。また、放射線照射装置を使用し小動物や細胞に放射線を照射する研究や、遺伝子組換え実験にも対応しています。RIの安全な取り扱いは、施設や環境の安全性を維持し、放射線業務従事者の放射線障害を防止するために非常に重要です。RI管理室は法規のもとに、安全な取り扱いの監督と教育、被ばく管理を行っています。



Center for Experimental Medicine

実験医学センター

実験医学センターは、先端医科学研究に対応した実験動物の中央管理施設として、昭和62（1987）年に設立されました。平成30（2018）年に新棟が竣工したのを機に、個別換気システム（IVC）を導入し、実験動物のspecific pathogen free（SPF）環境を厳密に維持しながら、研究者の利便性と動物福祉に配慮した運用を実現しました。実験医学センターでは、近年の医学教育・研究において不可欠な遺伝子組換え動物やゲノム編集動物の開発に加え、胚や配偶子による生物資源保存も推進し、科学的かつ倫理的な動物実験の拠点としての役割を果たしています。



Medical Simulation Center

メディカルシミュレーションセンター

メディカルシミュレーションセンター（Jsim47）は、診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と能力習得を目的として平成20（2008）年4月に開設しました。Jsim47は、学生の臨床教育、病院の医療従事者の技術習得および地域医療を支援します。救急蘇生、診断、検査などの教育訓練用シミュレータを備えるだけでなく利用しやすい環境も備えています。また、効果的で効率のよい教育訓練手法やシミュレータ本体の開発も行っています。



Center for Development of Advanced Medical Technology

先端医療技術開発センター

先端医療技術開発センター（ピッグセンター）は平成21年（2009年）に発足し、ブタを用いた医学研究や外科トレーニングの支援を行っています。本センターは、ブタ専用の繁殖施設、手術室、MRI、CT、集中治療ユニット（ICU）、無菌ユニット、細胞調整室を備え、長期間にわたる実験ブタ管理ができる、わが国でも有数の大型動物実験施設です。ゲノム編集技術をいち早く取り入れ、遺伝子改変ブタを積極的に作製しています。

本センターは、平成29年（2017年）以来、文部科学省から国の共同利用・共同研究拠点として認定されています。当拠点に対する中間及び期末評価で共に最高のS評価を獲得し、令和5年度から6年間、国の拠点認定が継続になりました。今後も本センターは、学内外の方々に広く施設を開放し、新たな学際領域の開拓及び人材育成を進めていきます。



Regional Clinical Education Center

地域臨床教育センター

地域臨床教育センターは、平成27（2015）年8月に設置された教育研究機関です。本センターは大学関連病院と連携して地域での診療、医学部学生および研修医がコモンディジーズを学ぶ教育システム、そして医学研究を促進して整える役割を持ちます。



Data Science Center

データサイエンスセンター

自治医大データサイエンスセンターは様々な種類の生物・医学・医療データを収集・管理し、収集したデータを用いて研究を行うことを目的に平成29（2017）年4月に設置されました。

当センターでは大規模データの管理・解析を自ら行うとともに、解析のノウハウに関する教育、また大規模データの解析に不慣れな研究者に対する支援を行っています。

具体的な研究テーマとして、レセプトデータを用いた医療分析、AIシステムを用いた心電図波形データ解析、生成AIを用いた医療文書の解析等を行っています。



Center for Physician and Researcher Career Support

医師・研究者キャリア支援センター

医師・研究者キャリア支援センターは、医師・研究者を対象としたキャリア支援並びに大学に勤務する職員の就労支援を目的として、平成24（2012）年に女性医師支援センターを前身として発足しました。

現在は次世代育成支援として、若手医師・研究者のキャリアアップを支援し、就業継続支援として就業や復職、育児支援に関する問題を取り上げ、調整をしています。地域医療従事医師支援については、自治医大卒業生の支援を、必要に応じて地域医療推進課と連携しながら対応しています。

また、交流とモチベーションアップを目的に「Jichi Joy Café」、
「働き方を考えるセミナー」、「次世代医師・研究者交流会」を開催しています。さらにアドバイザーによる個別相談も行っております。令和2（2020）年には全国ダイバーシティネットワークに登録し、より広範囲な研究者への支援体制を整えました。

育児支援としては、保育ルーム「あいりす」で、全職員を対象に病児保育・一時託児・夜間保育を提供しています。令和6（2024）年度からは病児保育に限り、下野市民や在勤者も利用可能となりました。さらに、同年厚労省の「子育て世代の医療職支援事業」の助成により「病児保育DX」を実践しました。病児保育の利便性向上のため、WEB予約システム導入を行い、遠隔診療の研究支援に取り組んでいます。

また、職員アンケートを通じてニーズを把握し、制度改正の提案も行っています。その成果として当学独自の育児短時間勤務制度では、医師の特例措置として所属長の承認があれば、子が小学校3年生修了時まで週20時間または30時間勤務が可能です。

今後も、当センターでは大学職員が希望をもってキャリアを築ける環境づくりを進めていきます。



看護師特定行為研修センター

看護師特定行為研修センターは、厚生労働省が創設した特定行為に係る看護師の研修制度（平成27（2015）年10月1日施行）の指定研修機関の指定を受け、平成27（2015）年8月に設置されました。

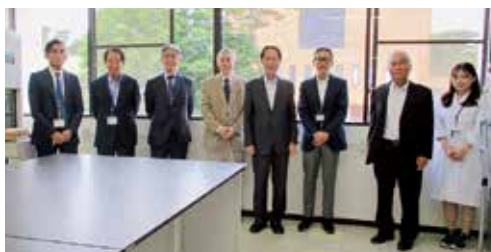
わが国では高齢化、人口減少などの社会的問題を抱えており、看護職の更なる能力向上が求められています。研修センターでは、このような状況に対応できるよう、医師の事前の指示（手順書）により一定の診療の補助（特定行為）を実施できるための高度かつ専門的な知識と技術をもち、チーム医療のキーパーソンとして役割を發揮できる看護師を養成することを目的として研修を実施しています。



Open Innovation Center

オープンイノベーションセンター

オープンイノベーションセンターは、本学から新たなイノベーションの創出を目的として、平成30（2018）年に設置されました。本センターでは、学内の複数の有望な研究シーズを見出し、企業など外部組織を含む大型共同研究を立ち上げ、必要な外部資金を獲得し、その集中的なマネジメントを行っています。さらに、特許出願、特許実施及び上市支援も行い、研究成果を社会実装へつなげています。本センターではオープンラボが比較的低料金で提供されており、本学発ベンチャー企業が利用しています。



Center for Gene Therapy Research

遺伝子治療研究センター

遺伝子治療研究センター（CGTR）は、本学の基礎から臨床にいたる各部署に所属している遺伝子治療研究者を組織横断的に結集して、平成30（2018）年10月に設置されました。本学のゲノム編集技術を含む遺伝子治療の開発研究として、遺伝性疾患から癌などの難治性疾患をカバーし、基礎から臨床応用に至る橋渡し研究の加速化を図り、我が国における遺伝子治療開発研究をリードしていくことを目的としています。令和5（2023）年には、AMED再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラムに、再生・細胞医療・遺伝子治療研究中核拠点として採択され、国内の遺伝子治療研究・臨床としての役割を担っています。



附属病院

Jichi Medical University Hospital

附属病院は、昭和49（1974）年に開院し、地域医療確保の先駆的な役割を担うとともに、本学の教育理念を実践に移す場として、高度の医療施設及び設備を整えています。

現在、病床数 1,132床、診療科47科を開設しており、優秀な医師、医療技術陣と医療施設の整備があいまって、充実した臨床教育の場を形成することはもとより、患者の信頼に応えられるようきめ細かな配慮を行うなど医療内容の一層の充実に努めています。

大学病院としての機能の充実や、高度化、多様化する医療ニーズに対応していくために患者アメニティに配慮するなど、21世紀に相応しい医療を提供できる病院づくりを目指しています。

病床数

令和7（2025）年4月1日現在

病床数 1,132床

（一般 1,075床 感染 1床 精神 56床）

上記病床数のうち

ICU…16床 NICU…15床 MFICU…12床

CCU…10床 救命救急センター…24床

PICU…8床 HCU…16床

診療科 47科

理 念

- 1 患者中心の医療
- 2 安全で質の高い医療
- 3 地域と連携する医療
- 4 地域医療に貢献する医療人の育成

基 本 方 針

- ・患者の皆様の権利を尊重し、信頼される医療を提供します。
- ・患者の皆様に満足いただけるような医療を組織全体で提供します。
- ・地域における医療の連携を深め、お互いに顔の見える関係を築きます。
- ・地域における持続可能な医療に貢献する人材を育成します。
- ・医療資源を有効に活用し、健全で持続可能な病院運営に努めます。

Hospital

さらに詳しい情報は
WEBサイトで
ご覧いただけます



とちぎ子ども医療センター

Jichi Children's Medical Center Tochigi



とちぎ子ども医療センターは、栃木県からの財政支援を受けて平成18（2006）年9月に開設されました。11診療科を整備し、県内唯一のPICUを有し、大学病院の専門診療集団と連携した高度小児医療を提供しています。今後も小児の難病診療、高度医療、救命医療に全力を注ぐ一方で、小児医療各領域の専門医育成という重要な責務を果たして参ります。

理 念

- 1 安心できる質の高い専門医療を提供します。
- 2 子どもと家族の明日への希望を支えます。
- 3 小児医療の人材を育成し小児医療の進歩に貢献します。



総合診療内科

General Internal Medicine

総合診療内科では、主として、症状の多彩な方、診断のついていない方、複数の疾患をお持ちの方の診療を行っています。また、大学の使命であるへき地で働く医師の育成という視点に立ち、医学生への教育にも力を注いでいます。



主な施設 Major Facilities

鏡視下手術部 Endoscopic Surgery Section

鏡視下手術部は、近年の内視鏡手術の普及、その安全性に対する注目から、平成19（2007）年10月に設立されました。本学の先端医療技術開発センター医療技術トレーニング部門と共同で、鏡視下手術トレーニング（JMU 鏡視下手術シミュレーション）を定期的に開催し、鏡視下手術の研修・教育体制確立を目指してきました。

平成25（2013）年11月には、手術支援ロボット da Vinci サージカルシステム Si（以下、ダヴィンチ）を導入し、同年12月より、同機器を使用して、鏡視下トレーニングを定期的に実施しました。令和5（2023）年より、臨床で Xi 2 台体制となりました。

ダヴィンチは、アメリカで開発された医療機器で、体内にカメラ用と3本の鉗子用のアームの穴を開けて操作する、内視鏡用手術支援ロボットです。術野を3D映像で肉眼よりも正確に見ることができ、狭い範囲でも人間の手以上の複雑で繊細な動きが可能となることから、低侵襲手術である鏡視下手術をより精密に行うことが出来ます。トレーニングを実施することで、十分な技能習得及び継続的なトレーニングが可能となり、医療技術および手術成績の向上に貢献することが期待されます。泌尿器科、婦人科、消化器外科、呼吸器外科が実臨床で実施しています。



総合周産期母子医療センター Center for Perinatal and Neonatal Medicine

総合周産期母子医療センターは、母体・胎児及び新生児から小児に至るまでの病気の予防と治療を一貫して行うため、「母体・胎児集中治療管理部」「分娩部」「新生児集中治療部」「新生児発達部」「院内助産所」の5部門により構成されています。

周産期とは、妊娠22週（妊娠6ヶ月）から分娩（出生）後1週間までをいい、母体および胎児・新生児にとって、特に変化の大きい重要な期間です。



救命救急センター Emergency and Critical Care Center

当救命救急センターは、平成4（1992）年に救急部として発足し、平成14（2002）年9月1日に救命救急センターとして認可を受けています。時代の変化に即して、独立型でも、ERだけでもない、大学の各診療科と常に連携した救急診療体制をとっています。とくに夜間・休日に対しては、病院全体として救急患者の対応にあたる体制を構築し、広い地域の医療ニーズに答えております。

平成30（2018）年には新しい病棟およびHCUが新設されました。さらに令和元（2019）年にはHybrid ERなどが整備され、今後は重症多発外傷および中毒など、三次救急医療機関として求められる体制をより強化してゆく計画です。



臨床研究センター Clinical Investigation Center

臨床研究センターは、本学および本学附属病院での臨床研究、治験、製造販売後臨床試験・調査を戦略的に推進し、医療の進歩と福祉の向上に寄与するとともに附属病院の基盤となる高度医療を維持・発展させること、さらには地域医療に携わる自治医大卒業生に対する臨床研究の支援をすることを目的に、全学的な教育研究施設として平成25（2013）年4月に設置された臨床研究支援センターと附属病院の臨床研究センターを組織統合し、令和4（2022）年4月に設置されました。本センターは、大学と連携して臨床研究を支援しています。

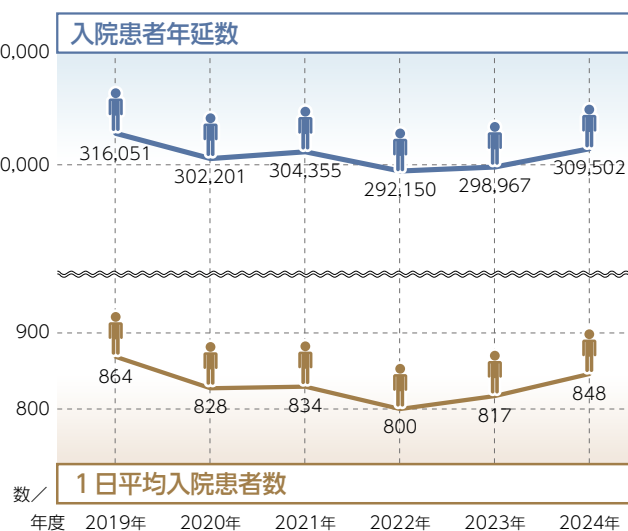
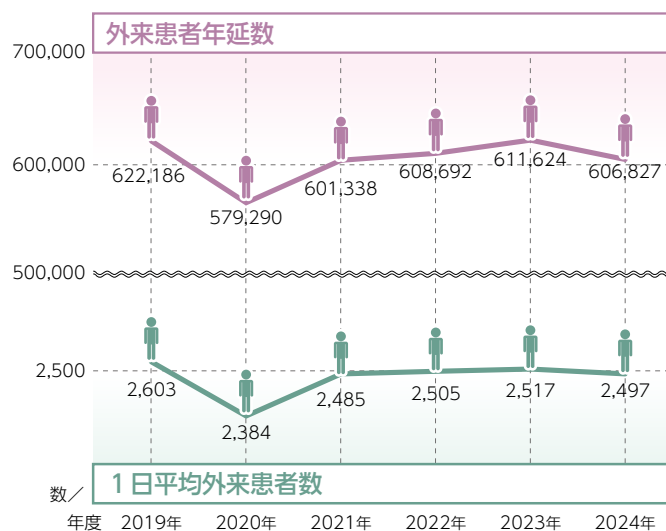


健診センター Health Care Center

健診センターは人間ドック・総合健診の専門施設で、日本総合健診医学会 優良総合健診施設に認定されています。「受診者満足を最優先し、健診・保健指導の質的向上をととして人類全体の健康増進に貢献する」ことをミッションとし、くつろぎの環境と高品質の健診サービスを提供しています。経験豊富な医療スタッフが、コンピュータシステムによる自動化と専門的な検査機器を活用して実施する短時間で苦痛の少ない検査により、全身の系統的健診が可能です。受診当日に医師による健診結果説明と個々の結果に合わせた健康指導を行い、さらに該当者には健診当日の特定保健指導にも対応できる専任スタッフ体制を整えています。



外来・入院患者数の推移





附属さいたま医療センター

Jichi Medical University Saitama Medical Center

附属さいたま医療センターは、地域における医療への貢献と、へき地等の地域医療に従事する医師に対する生涯教育の確立を図ること等を目的に、平成元（1989）年12月に埼玉県大宮市（現・さいたま市）に開設されました。

その目指す医療の方向としては、全人的包括的医療を志向する総合医の修練と大学病院としての使命である高度医療の提供にあり、これらに十分対応し得るよう、医師をはじめとする医療スタッフには優秀な人材を確保し、施設、設備、医療機器についても最新のものを取り入れています。

また、当センターには、循環器病臨床医学研究所が付置されていますが、我が国では数少ない医学研究所であり、診療と密接な関係を保ちながら循環器病及びそれに関連する幅広い領域の臨床医学・社会医学の研究を行っています。

なお、外来患者数増加並びに、医療環境の変化に伴う新たな医療ニーズへの対応のため、施設設備の充実を図っていきます。

理念

- 1 患者中心の医療
- 2 安全で質の高い医療
- 3 地域に根ざした医療
- 4 心豊かな医療人の育成

基本方針

- 1 患者の皆様を尊重し、開かれた安心できる医療を提供します
- 2 チーム医療を推進し、安全で質の高い医療を提供します
- 3 地域との連携を深め、基幹病院としての役割を果たします。
- 4 地域医療に貢献する医療人を育成します

病床数

令和7（2025）年4月1日現在

病床数 628床
(一般 628床)

上記病床数のうち
ICU・CCU…22床 EICU…8床
HCU…20床

診療科 20科

Hospital

さらに詳しい情報は
WEBサイトで
ご覧いただけます



総合健診部

General Health Examination Section

総合健診部では、脳腫瘍の早期発見や脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など）の一次予防を目指して検査を行い、脳神経外科医・神経内科医だけではなく、放射線科医、内科医・外科医・循環器内科医などの協力も得て総合的な検査・診断を行っております。くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤や発見が遅れがちな脳腫瘍を早期に発見するだけではなく、MRIや頸動脈エコー検査結果の詳細な解析と、脳梗塞や脳出血の発症に関する数多くの危険因子の分析を行い、現時点での発症し易さと予防の必要性を解析し、受診者の現状を評価することによって将来の脳血管疾患発症のリスクなどについてご説明しています。オプションで行っております高次脳機能検査も好評です。



循環器病臨床医学研究所

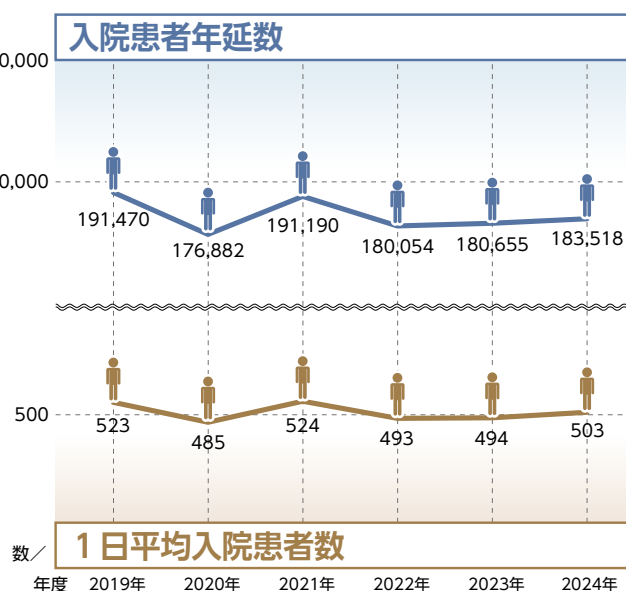
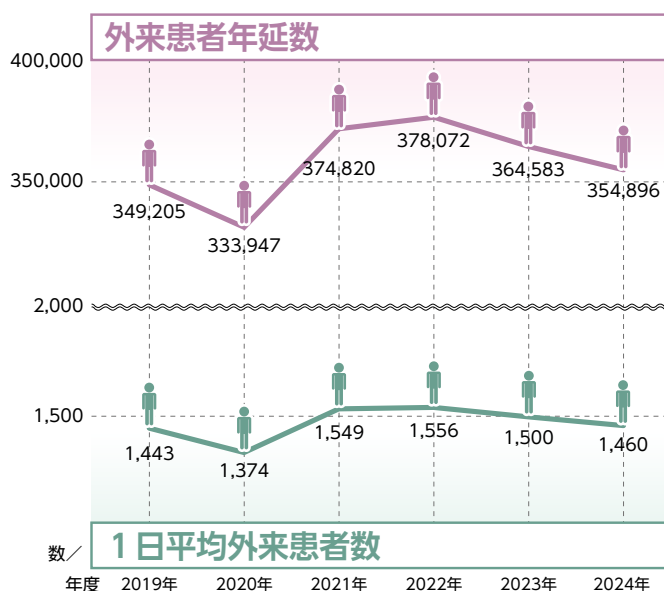
Clinical Laboratories for Cardiovascular Diseases

当研究所は、わが国有数の医療水準を誇るさいたま医療センターの循環器診療のさらなる進歩の基礎となる研究を行う目的で、センターの開設と同時に設立されました。以来、現代の日本人の主要な死因となっている心筋梗塞や脳卒中の原因である動脈硬化に関する研究あるいはその他の多岐にわたる領域を中心に地道な活動を重ねています。

当施設の専任のスタッフは少数ですが、いずれも国際的にも評価される研究業績を挙げており、また、さいたま医療センターの診療部門のスタッフの研究の場としても活用されています。設備も最先端の機器を備えた研究所です。



外来・入院患者数の推移



役員・評議員

令和7(2025)年6月1日現在

役員			評議員		
会 長	村 井 嘉 浩	全国知事会会長(宮城県知事)	達 増 拓 也	岩手県知事	
理 事 長	大 石 利 雄		阿 部 守 一	長野県知事	
常務理事	永 井 良 三	自治医科大学学長	大 村 秀 章	愛知県知事	
常務理事	小 池 裕 昭		三日月 大 造	滋賀県知事	
理 事	大 槻マミ太郎	自治医科大学副学長	伊原木 隆 太	岡山県知事	
理 事	川 合 謙 介	自治医科大学附属病院長	濱 田 省 司	高知県知事	
理 事	遠 藤 俊 輔	自治医科大学附属さいたま医療センター長	河 野 俊 嗣	宮崎県知事	
理 事	尾 仲 達 史	自治医科大学大学院医学研究科副研究科長	山 口 祥 義	佐賀県知事	
理 事	小 原 泉	自治医科大学看護学部長	池 田 忠 剛	栃木県議会議員	
理 事	中 島 正 信	全国知事会事務総長	高 原 剛 泉	全国都道府県議会議員会事務総長	
理 事	村 井 嘉 浩	宮城県知事	望 月 泉 誠	(公社)全国自治体病院協議会会長	
理 事	内 堀 雅 雄	福島県知事	藤 原 誠 一	(独)東京国立博物館長	
理 事	福 田 富 一	栃木県知事	市 村 恵 次	(医)東京みみ・はな・のどサージクリニック名誉院長	
監 事	石 川 英 仁	山梨県東京事務所長	簀 田 清 次	日本経済新聞社HR本部保健センター所長	
監 事	川 村 毅		國 土 典 宏	国立健康危機管理研究機構理事長	
			鈴 木 康 裕	国際医療福祉大学学長	
			遠 藤 仁 司	自治医科大学特別教授	
			松 村 正 巳	自治医科大学附属副病院長	
			讃 井 將 満	自治医科大学附属副病院長	
			福 田 順 子	自治医科大学附属副病院長	
			藤 田 英 雄	自治医科大学附属さいたま医療センター副センター長	
			鈴 木 聡 子	自治医科大学附属さいたま医療センター副センター長	
			吉 新 通 康	(公社)地域医療振興協会会長	
			関 口 忠 司	那須南病院統括管理監	
			遠 山 信 幸	自治医科大学名誉教授	
			岡 崎 仁 昭	自治医科大学特別教授	
			藤 来 靖 士	(公社)地域医療振興協会理事長	

教職員数

令和7(2025)年4月1日現在

区 分		大 学	附属病院	さいたま医療センター	計
教員・医師	学 長	1			1
	副 学 長	1			1
	学 部 長	1			1
	特 別 参 与	4			4
	教 員	372	436	320	1,128
	医 師		99	56	155
職 員	事 務 職 員・研究補助員	212	157	107	476
	医療技術職員		480	258	738
	看 護 職 員		1,453	919	2,372
合 計		591	2,625	1,660	4,876



自治医科大学 組織図

監 事

学校法人 自治医科大学

自治医科大学

医学部

医学科

講座

基礎医学部門

解剖学

- 解剖学
- 組織学
- 法医学

生理学

- 生物物理学
- 神経脳生理学
- 統合生理学

生化学

- 構造生化学
- 機能生化学
- 病態生化学

基礎・臨床医学連携部門

薬理学

- 分子薬理学
- 臨床薬理学

病理

- 腫瘍病理学
- 包括病態病理学

感染・免疫学

- 細菌学
- ウイルス学
- 医動物学
- 感染症学

環境予防医学

総合医学部門

救急医学

総合医学第1

総合医学第2

臨床医学部門

内科学

- 循環器内科学
- 腎臓内科学
- 消化器内科学
- 呼吸器内科学
- 神経内科学
- 血液学
- 内分泌代謝学
- アレルギー・膠原病学

皮膚科学

放射線医学

精神医学

小児科学

- 小児医学
- 発達医学

外科学

- 心臓血管外科学
- 呼吸器外科学
- 消化器一般移植外科学
- 小児外科学

形成外科学

脳神経外科学

整形外科

産科婦人科学

- 婦人科学
- 母性・生殖医学

泌尿器外科学

- 泌尿器科学
- 腎臓外科学

耳鼻咽喉科学

眼科学

麻酔科学・集中治療医学

- 麻酔科学
- 集中治療医学

臨床検査医学

歯科口腔外科学

学科目

総合教育部門

哲学

倫理学

文学

心理学

社会学

文化人類学

自然史学

数学

英語

中国語

保健体育

医学情報学

医療安全学

病院管理学

センター・部

医学教育センター

共同実験機器センター

学生生活支援センター

学生寮生活サポートセンター

卒後指導部

看護学部

看護学科

学科目

看護基礎科学

基礎看護学

地域看護学

精神看護学

母性看護学

小児看護学

成人看護学

老年看護学

評議員会

理事会

大学院

医学研究科

修士課程

医科学

先端医科学

総合医療科学

臨床連携科学

博士課程

地域医療学系

地域医療学

総合医学

循環器・呼吸器疾患学

消化器疾患学

病態機能外科学

内分泌代謝疾患・病態解析学

血液・免疫疾患学

精神・神経・筋骨格疾患学

生殖・発達医学

腎尿路疾患学

皮膚・感覚器疾患学

麻酔・救急・集中治療医学

腫瘍医学

人間生物学系

生体構造医学

生体分子医学

生体制御医学

生体防御医学

基礎系総合医学

環境生態学系

環境生態医学

保健医療システム学

看護学研究科

博士前期課程

看護学専攻

実践看護学

地域看護管理学

博士後期課程

看護学専攻

広域実践看護学

大学事務部

学事課

研究推進課

学生課

地域医療推進課

図書館管理課

看護総務課

看護学務課

教育研究施設

地域医療学センター

分子病態治療研究センター

情報センター

図書館

R I センター

実験医学センター

メディカルシミュレーションセンター

先端医療技術開発センター

地域臨床教育センター

データサイエンスセンター

附属病院

附属さいたま医療センター

医師・研究者キャリア支援センター

看護師特定行為研修センター

オープンイノベーションセンター

遺伝子治療研究センター

ヘルスエクイティ地域共創センター

事務局

総務部

理事室

人事課

総務経理課

企画広報課

管財課

情報システム課

保健センター

内部監査室

診療部門

総合診療内科（内科総合）

循環器センター

- 内科部門（循環器内科）
- 外科部門（心血管外科）

消化器センター

- 内科部門（消化器・肝臓内科）
- 外科部門（消化器外科）

呼吸器センター

- 内科部門（呼吸器内科）
- 外科部門（呼吸器外科）

脳神経センター

- 内科部門（脳神経内科）
- 外科部門（脳神経外科）

腎臓センター

- 内科部門（腎臓内科）
- 外科部門（腎臓外科）

血液科

内分泌代謝科

アレルギー・リウマチ科

臨床腫瘍科

感染症科

緩和ケア科

放射線診断科（画像診断科）

放射線治療科

精神科

皮膚科

乳腺科

整形外科

移植外科

形成外科

美容外科

産科

婦人科

泌尿器科

耳鼻咽喉科

眼科

麻酔科

救急科

リハビリテーション科

病理診断科

歯科口腔外科・矯正歯科

とちぎ子ども医療センター

小児科

- 小児科総合診療部
- 小児科専門診療部

小児外科

小児・先天性心臓血管外科

小児泌尿器科

小児整形外科

小児脳神経外科

小児移植外科

小児形成外科

子どもの心の診療科

小児耳鼻咽喉科

小児歯科口腔外科

小児画像診断部

小児手術・集中治療部

- 小児手術部
- 小児集中治療部

小児リハビリテーション部

子ども医療センター ボランティア室

中央施設部門

中央手術部

- 中央材料室

周術期センター

鏡視下手術部

画像診断部

- 診断部
- 核医学部

放射線治療部

血管内治療センター

- 放射線IVR部
- 脳血管内治療部
- 大動脈治療部
- 心疾患治療部

腫瘍センター

- 臨床腫瘍部
- 放射線腫瘍部
- 精神腫瘍部
- がんゲノム医療部

冠動脈集中治療部

重症心不全治療部

無菌治療部

緩和ケアセンター

- 緩和ケア部

成人先天性心疾患センター

脳卒中センター

糖尿病センター

リウマチセンター

てんかんセンター

腹膜播種治療センター

臨床遺伝子・細胞治療センター

透析センター

- 外来透析部
- 入院透析部

光学医療センター（内視鏡）

- 内視鏡部

生殖医学センター

（不妊治療・体外受精センター）

移植・再生医療センター

リハビリテーションセンター

臨床薬理センター

- 診療・薬事・臨床試験支援室
- 薬毒物・オミックス解析室

遺伝カウンセリング室

臨床検査部

病理診断部

輸血・細胞移植部

薬剤部

臨床栄養部

- 栄養管理室
- NST支援室

臨床工学部

放射線管理センター

- 放射線管理室

こころのケアセンター

がん相談支援センター

脳卒中・心臓病総合支援センター

健診センター

副病院長

運営支援部門

医療情報部

- システム運用管理室
- 診療情報管理室
- 看護情報管理室

卒後臨床研修センター

- 初期研修管理部門
- 後期研修管理部門

看護部

患者サポートセンター

- 入退院支援室
- 地域医療連携室
- 医療福祉相談室
- 看護支援室
- ボランティア支援室

メディカルサポートセンター

- 医師事務支援室

看護職キャリア支援センター

事務部

- 総務課
- 経営改革課
- 用度課
- 医事課

医療安全管理部

医療の質向上・安全推進センター

- 安全推進部門
- 質向上・臨床倫理部門
- 医薬品・医療機器安全管理部門
- 渉外担当部門

感染制御部

医療放射線安全推進センター

企画経営部

戦略的人員配置部

入院診療運営部

外来診療運営部

中央施設診療運営部

臨床研究センター

T R 研究推進部

企画開発部

臨床研究・治験推進部

管理部

データサイエンス部

広報啓発・ネットワーク推進部

監査管理部

総合周産期母子医療センター

母体・胎児集中治療管理部

分娩部

院内助産所(ラ・ヴィ)

新生児集中治療部

新生児発達部

周産期教育支援部

救命救急・総合集中治療センター

救命救急センター

- 救命外傷センター

集中治療部

高度治療部

さいたま医療センター 組織図



建物配置図

自治医科大学・附属病院

■ 構内敷地面積 583,036㎡ ■ 構外敷地面積 60,931㎡

令和 7 (2025) 年 4 月 1 日現在

主な建物面積

- ① 大学・附属病院本館 (106,400 ㎡)
- ② 附属病院新館・新館南棟 (40,536 ㎡)
- ③ とちぎ子ども医療センター (14,494 ㎡)
- ④ 看護学部 (10,432 ㎡)
- ⑤ 医学部教育・研究棟 (24,899 ㎡)
- ⑥ 西棟別館 (MRI 棟) (1,986 ㎡)
- ⑦ 放射線治療棟 (3,161 ㎡)

- ⑯ 学友会館
- ⑳ ATLAS ARENA (体育関連施設)
- ㉑ 運動場
- ㉒ テニスコート



- ⑧ 立体駐車場
- ⑨ 外来駐車場
- ⑩ 自治医科大学 1 号館 (健診センター)
- ⑪ 自治医科大学 2 号館 (医師・研究者キャリア支援センター)
- ⑫ J プラザ
- ⑬ リハビリテーションセンター
- ⑭ 地域医療情報研修センター・図書館
- ⑮ 実験医学センター
- ⑯ 先端医療技術開発センター
- ⑰ 合同研究棟
- ⑱ 自治医科大学創立 20 周年記念棟

- ㉓ 医学部学生寮
- ㉔ 教職員住宅
- ㉕ レジデントハウス
- ㉖ 教職員住宅
- ㉗ 看護師宿舎 看護学部学生寮

建物配置図

附属さいたま医療センター

敷地面積 52,841.87㎡ 建物面積 24,989.56㎡

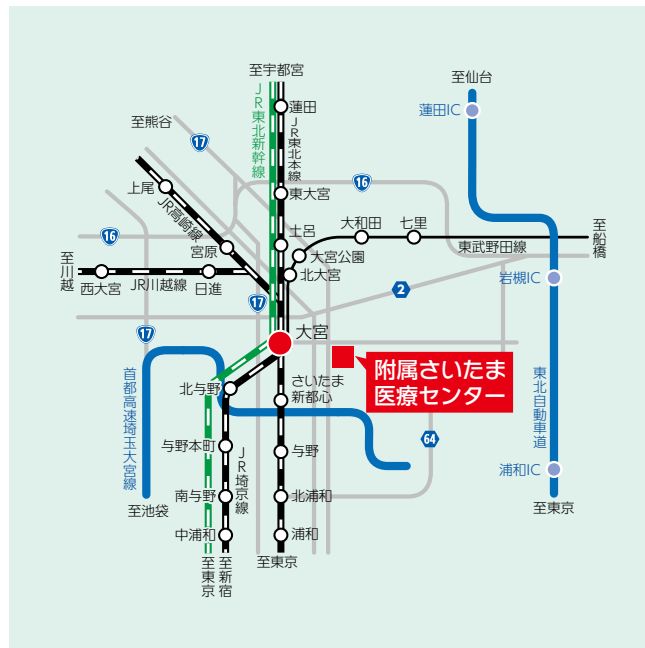
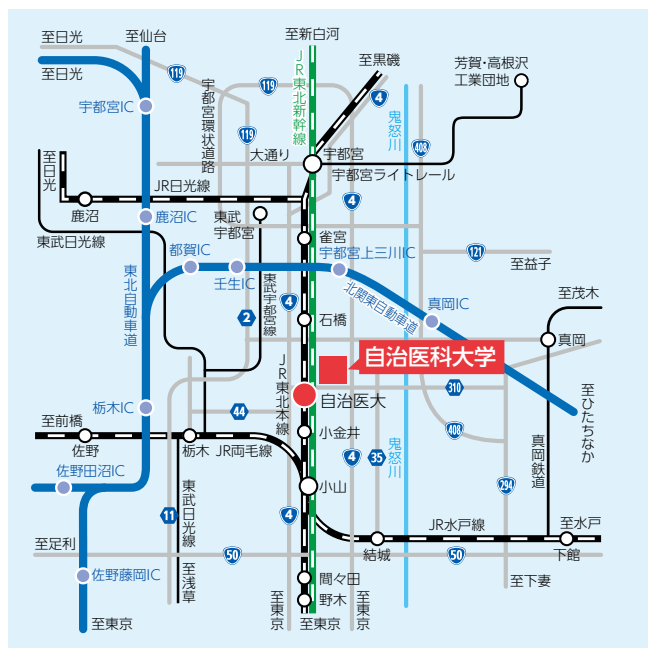
令和7(2025)年4月1日現在



- ① 本館
- ② 南館
- ③ 外来棟
- ④ 管理・研究棟
- ⑤ A 駐車場
- ⑥ B 駐車場
- ⑦ 正面玄関



アクセス



自治医科大学・附属病院

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
TEL.0285-44-2111 (代表)

- ・JR宇都宮線「自治医大駅」下車、徒歩10分または接続バスで5分
- ・東北新幹線を利用の場合は、「東京方面からは小山駅」、
「東北方面からは宇都宮駅」で下車し、宇都宮線の普通電車に乗り換え。

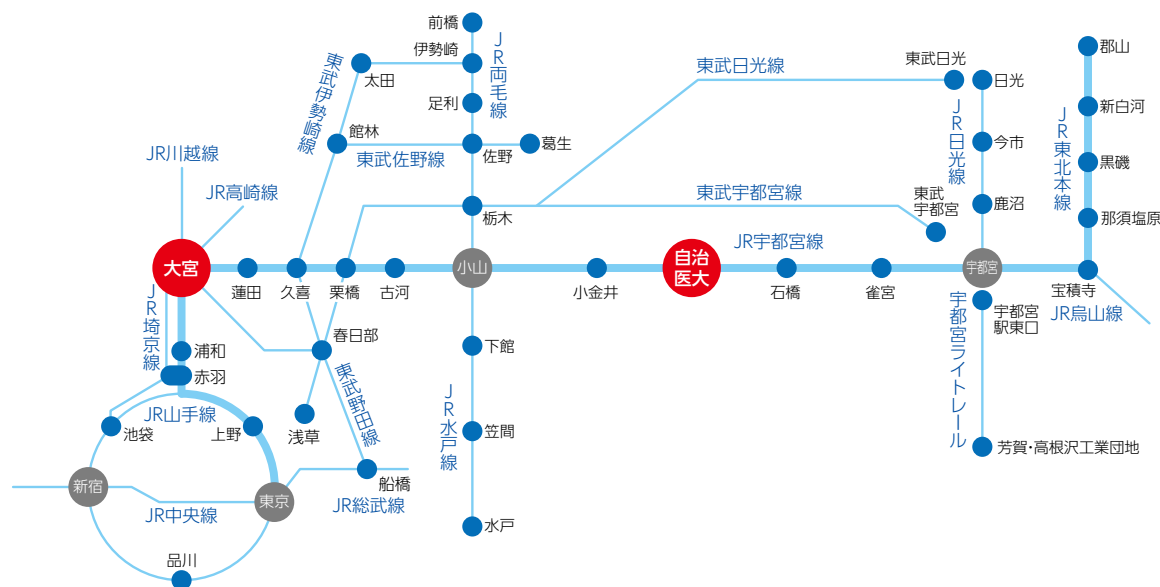
附属さいたま医療センター

〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847
TEL.048-647-2111 (代表)

- ・「大宮駅」下車、国際興業バス（東口4番乗場、自治医大医療センター行き）で10分



- 1 自治医科大学
- 2 附属さいたま医療センター



令和 7 年

(2025年3月卒業生実績)

医師国家試験合格率

99.3%

看護師国家試験合格率

96.2%

保健師国家試験合格率

94.2%

助産師国家試験合格率

100%



学校法人 自治医科大学
シンボルマーク

中央に自治医科大学の「自」を、その両側には構内に数多く植えられている「松の木」をデザインし、学問の府であることを本の形で表現しています。



校章

太い曲線は、自治医科大学の頭文字の「J」と本学
の特性(全国の都道府県が共同設立した大学で
あること)を象徴した「日本列島」を意味し、この中
に「医大」の文字を配しています。

自治医科大学

お問い合わせ先：総務部企画広報課

<https://www.jichi.ac.jp/>



自治医科大学概要 2025-26

本冊子は

ユニバーサルデザインフォントを使用しています。

※ユニバーサルデザインフォント／

年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、さまざまな人が
読みやすく、誤読されにくい書体です。

令和 7 年 9 月発行



公益財団法人大学基準協会
「大学基準適合認定」

JICHI
Medical University